

9. 宮城県教育委員会の取組と 「花山で遊ぼう！」との関わり

宮城県では、幼児期を生涯にわたる人格形成の基礎を築く時期、すなわち「学ぶ土台づくり」の時期として捉え、家庭・幼稚園・保育所等のいずれにおいても充実した幼児教育が行われることを目指し、平成23年3月に「学ぶ土台づくり」推進計画(計画期間:平成23年度～平成26年度)、平成27年3月に第2期「学ぶ土台づくり」推進計画(計画期間:平成27年度～平成29年度)を策定し、幼児教育の充実を目指して、各種事業や取組を実施してきました。

平成29年度末には、幼児教育を推進していくための新たな指針として、第3期「学ぶ土台づくり」推進計画(平成30年～32年)を策定する予定です。この第3期「学ぶ土台づくり」推進計画には、第1期から継続している施策として「体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立」が掲げられています。

特に、体力向上では、「外遊び等のすすめと運動習慣の定着促進」として、①実態に応じたプログラムの作成と実践の充実 ②教育施設や公共施設(公園、スポーツセンター自然の家、運動場等)、または安全に配慮した身近な場の確保 ③子供の体力、運動能力の把握に努め、外遊びや体を動かす機会を持つことの重要性の啓発 の3点を挙げています。

宮城県の現状として、小学校入学前に、既に体力や運動能力にかなりの差が見られ、また、肥満傾向児も全国平均をはるかに上回っていることが調査から明らかになっています。運動習慣の定着や体力・運動能力の向上は県として最も大きな課題の一つと言えます。

今回、花山青少年自然の家で「遊んで身につく36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラム」を開発したことは正に「学ぶ土台づくり」と合致しており、県でもその周知や普及に積極的に関わっていく必要があると考えます。

コンセプトにある「遊びがもつ魅力を引き出す『場』と『きっかけ』づくり」は、花山青少年自然の家を訪れることによって引き出されます。「場」である野外フィールドあるいは室内プレイホールでの豊富なレシピの体験は「きっかけ」となり、子供たちの実態に応じたプログラムの作成や実践ができます。初めはレシピに従って行う運動も子供たちの実態や場所によって変化し、遊びをとおした基本的な運動の数々が体験できます。また、同じ場所でも季節によってレシピに幅が広がり、草原や雪上体験なども含めると無限の遊びを体験できます。

このようなことから花山青少年自然の家の「遊んで身につく36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラム」は宮城県の第3期「学ぶ土台づくり」推進計画を進める上でも非常に重要な取組と言えます。できれば、花山での体験をその場限りで終わらせることなく、先生方が自園化し、園での日々の遊びに取り入れることによって継続され、さらなる体力・運動能力の向上につながっていくことを切に希望します。

宮城県北部教育事務所栗原地域事務所 千田 知幸